

施策：	25	市民との情報共有の推進	財務コード	01020103-01-026
基本事業：	01	広報の推進	担当部	企画政策部
基本事業の成果指標	広報紙を読んでいる市民の割合 ホームページアクセス件数 SNSフォロワー数		担当課	秘書広報課
			担当係	広報広聴担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
筑紫野市内外の住民及び市内に通勤・通学している人			・広報業務としては、市ホームページの掲載及び内容の確認、SNS（Facebook、X(旧Twitter)、LINE、Instagram、YouTube）の運用、市民便利帳の発行の他、マスコミ等にイベント等の情報を提供します。 ・広聴業務としては、まちづくり座談会、まちづくりへの提案等を実施し、市民の声を取り入れながら、市民参画の市政づくりに努めます。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
行政情報を分かりやすく積極的に提供を行うとともに、市民等からの意見・提案を受け入れ、情報の共有化を進め、市民協働のまちづくりを推進します。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
メディアでの報道件数		件		37	50	50			60	
まちづくり座談会の実施回数		回	0	11	17	17			17	
5. コスト										
事業費		計	千円	1,889	1,689	948	982			
		国	千円		0	0	0			
		県	千円		0	0	0			
		地方債	千円		0	0	0			
		その他	千円		45	5	5			
一般		千円	1,889	1,644	943	977				
正職員人工数		人工	1.4	1.5	1.5					
正職員人件費		千円	10,941	12,035	12,572					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	12,830	13,724	13,520	982				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		・プレスリリースへの注力不足と、報道件数の情報収集方法が確立していないため、メディアでの報道件数については、目標を達成できなかった。 ・広聴事業としては、R6年度中にまちづくりへの提案を89件受付、まちづくり座談会を11回実施している。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	R6年度は秘書広報課担当者減により、各課へ呼びかけを十分に行えなかったため、メディアへの情報提供件数が昨年度より減少した。まちづくり座談会については、行政区だけでなくコミュニティや商工会とテーマを持って話し合うことで、具体的な意見交換ができ、参加者の満足度も向上している。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
R7年度より、報道件数はケーブルステーション福岡で放送された件数とする。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
・H26年度から市公式Facebook・X(旧Twitter)開始 ・H27年度から市公式YouTube開始 ・R2年度から市公式LINE開始 ・R3年度から市ホームページをリニューアル、市公式Instagram開始 ・令和6年3月から魅力発信ポータルサイトを立ち上げ										

事務事業名 広報「ちくしの」発行事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：27

施策：	25	市民との情報共有の推進	財務コード	01020103-02-027
基本事業：	01	広報の推進	担当部	企画政策部
基本事業の成果指標	広報紙を読んでいる市民の割合 ホームページアクセス件数 SNSフォロワー数		担当課	秘書広報課
			担当係	広報広聴担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和47年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
筑紫野市民及び市内に通勤・通学している人（市民等）			毎月、各課や市民から提出された原稿を秘書広報課で編集し、複数回の校正を経て発行します。また、行政情報の圧縮、特集の掲載、表紙の写真掲載など紙面の改善を行います。 「広報ちくしの」は、筑紫野市広報紙発行規則（昭和47年3月16日規則第9号）に基づき月1回発行し、区長を通じ各世帯、及び市内各施設、市役所各課などに配布します。 広報紙については、市ホームページにも毎月掲載し、Facebook、X（旧Twitter）、スマートフォンアプリ「マチイロ」にて配信します。R2.3からLINEにおいても同様に広報紙を配信します。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
行政情報や市の魅力等が正確に市民等に伝わり、理解され、行動に結びついています。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
広報紙を読んでいる市民の割合		%	80.4	84	85	85			82.8	
市からの情報提供の質や量が十分だと思う市民の割合		%	88.4	89.5	90	90			90.4	
5. コスト										
事業費		計	千円	16,206	16,859	22,601	20,842			
		国	千円			0	0			
		県	千円			0	0			
		地方債	千円			0	0			
		その他	千円	1,413	1,557	1,054	1,054			
一般	千円	14,793	15,302	21,547	19,788					
正職員人工数		人工	1.4	1.5	1.5					
正職員人件費		千円	10,941	12,035	12,572					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	27,147	28,894	35,173	20,842				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		・まちづくりアンケートによると、広報紙を読んでいる割合、情報提供の量と質の満足度ともに、順調に増加しています。 ・計画的な記事掲載など紙面を継続的に改善し、今後もSNSとの連動を活発にしながら、引き続き読みたくなる広報紙であるよう工夫を重ねていきます。 ・令和6年度の発行部数は、毎月約44,700部となっています。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	市民に対しては広報紙が情報発信の中心であるため、インターネット上での配信も進めつつ、引き続き読みたくなる広報紙であるよう工夫を重ねていきます。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
広報紙とSNSを効果的に連動させるよう、情報の性質に合わせた発信・配信方法を検証する。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
令和3年度から毎月1回の発行に変更。市民が親しみやすい情報を掲載し、全面カラー化するなど、手に取り読みたくなる広報紙へと改善を図っている。 また、市ホームページ、SNSなどを通じて、紙媒体だけでなくインターネット上においても、「広報ちくしの」を提供している。										

事務事業名 つくしちゃん積極活用事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1724

施策：	25	市民との情報共有の推進	財務コード	--
基本事業：	02	市の魅力の発信	担当部	企画政策部
基本事業の成果指標	市公式ホームページ（魅力発信に関するページ）アクセス件数 この1年間で友人・知人に筑紫野市の良さを伝えたことがある市民の割合 メディアでの報道件数		担当課	秘書広報課
			担当係	広報広聴担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成27年度 ~ 令和06年度		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市内外住民			<ul style="list-style-type: none"> 市のマスコットキャラクター「つくしちゃん」を活用し、市の認知度の向上をめざします。 SNSや市のホームページ（魅力発信に関するページ）、新聞、テレビなどあらゆる媒体を用いて、市の魅力を積極的に発信します。 						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
市の魅力を発信し、市民の定住意識の向上を図るとともに、移住の促進や観光入込客の誘致が促されています。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
着ぐるみの貸し出し回数		回	33	56	0	0			60
「つくしちゃん」の認知度（市民アンケート）		%	89.7	91	0	0			94.3
5. コスト									
事業費		計	千円	31	3,771	0			
		国	千円	0	0	0			
		県	千円	0	861	0			
		地方債	千円	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0			
一般		千円	31	2,910	0				
正職員人工数		人工	0.3	1.5					
正職員人件費		千円	2,345	12,035					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,376	15,806	0				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		イベントの復活等により、着ぐるみの機数も増えたため、貸出回数が23回増加した。 「つくしちゃん」の認知度について、まちづくりアンケートで平成30年度から質問項目を設けており、令和6年度は「イラストも愛称も知っている」60.9%、「イラストだけ知っている」24.1%、「愛称だけ知っている」60.%となっている。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし		【状況】イベントの再開や新規イベントの開始などに伴い、大幅に貸し出し回数が増え、認知度も順調に上がっている。 【課題】リニューアルしたことで着ぐるみが1体しかない期間が長く、貸し出しに制限がかかっている。				
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
令和6年度につくしちゃんのリニューアルを行い、それに伴う周知、活用ツールの拡大により、認知度向上を図る。また、つくしちゃんを活用したシティプロモーションを行うことで、市民の郷土愛を深め、筑紫野市の認知度を高める。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
本事業は令和7年度より「シティプロモーション事業」へ統合する。									